

第一章 昨年度の課題と本年度の方向性

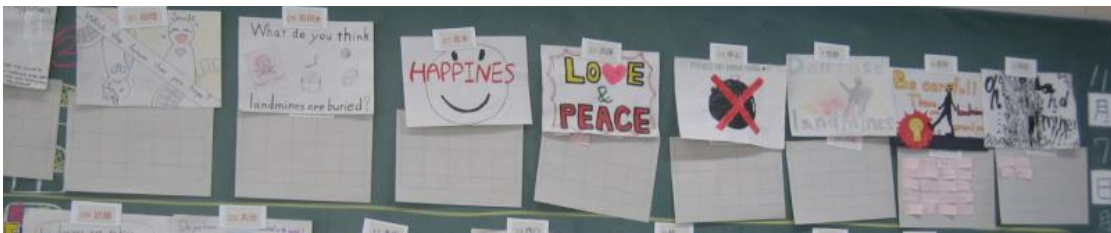
1 昨年度の課題

(1) 職員の取り組み

初年度に新しい学習指導要領に対応するための研究の柱として、授業などの学習活動に協同学習を取り入れた。南山大学石田裕久教授から職員研修を受けたり、協同学習における県外の先進的な取り組み校を視察したりして具体的な方法を探った。また、国語・数学・英語の3教科では、大学で授業方法の研究に携わる教授等に協力を仰ぎ、授業や指導案に細かいアドバイスを得ることができた。

しかし、校内研究委員として授業改善に取り組んだ教員が英数国各教科1名であったことから、1年を経ても教科内に大きく広がることがなかった。教科支援員の指導を得ることができなかった教科は尚更のことであった。

協同学習導入前の1学期と導入後の2学期に行った「生徒による授業評価」を分析すると、研究初年度ということもあり、①2学期から導入し始めた協同学習の浸透は僅かであり、②授業への興味・関心は微増であった。このことから、③2年目の取り組みに向けて内容や指導方法について改善が必要、という課題を残すことになった。



(2) 教科内の研究意識

3教科各1名の校内研究委員では、教科内の活性化に繋がらない現実があった。授業の工夫や改善における新鮮な発想や、授業実践における生徒の意外な反応などの情報交換が少なく、研究の広がりには欠けたことが大きな課題として残った。

(3) 生徒の主体性

各種コンテストへの挑戦や地域のボランティア活動など、対外的な活動に参加する機会を増やしたが、参加した生徒一人ひとりの意識に自己有用感と達成感が生まれたかどうかを計ることができなかった。また、生徒の対外的な活動に加え、学校生活の主を占める授業の場で自己の存在感と他者との共生を見つけ出し、自己実現を図りながら他者を理解する寛容の精神を育める指導方法を見つける必要があった。

2 本年度の方向性

教科会を主体とした研究意識の醸成を図り、引き続き本校の教育目標である「社会に貢献する人間の育成」を目指す。

(1) 最終報告会までの流れ

6月5日(月)～16日(金)	第1回校内公開授業週間
6月15日(木)	公開授業

9月～12月	県内・県外先進校訪問
11月6日(月)	文部科学省の研究視察
11月1日(水)～10(金)	第2回校内公開授業週間
12月中旬	生徒による授業評価
12月中旬	保護者による学校評価
2月2日(金)	最終報告会

(2) 実践研究推進委員の選出

研究支援委員	
・大学研究者	南山大学人文学部心理人間学科 教授 石田 裕久 様
・先進研究校	愛知県立加茂丘高等学校 教諭 鈴木 和浩 様
・助言者	愛知県教育委員会高等学校教育課 指導主事 伊藤 君江 様
授業支援委員	地域連携推進組織
<ul style="list-style-type: none"> ・教科支援員 <ul style="list-style-type: none"> 国語 愛知淑徳大学創造表現学部 教授 永井 聖剛 様 数学 愛知教育大学数学教育講座 准教授 青山 和裕 様 英語 日本福祉大学国際福祉開発学部 教授 米津 明彦 様 ・助言者 <ul style="list-style-type: none"> 愛知県教育委員会高等学校教育課 指導主事 伊藤 君江 様 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携アドバイザー <ul style="list-style-type: none"> 特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長 三矢 勝司 様 ・地域連携(拠点) <ul style="list-style-type: none"> 岡崎市北部地域交流センター「なごみん」 センター長 牧野 和弘 様 ・地域連携(学校) <ul style="list-style-type: none"> 五校交流会 <ul style="list-style-type: none"> 愛知県立岡崎豊学校, 岡崎市立岩津中学校, 岡崎市立岩津小学校, 岡崎市立恵田小学校
学校評議員	
・岩津学区総代会長	時々輪忠正 様
・元県立高等学校長	吉野 功 様
・同窓会副会長	柴田 和子 様
・岡崎市立岩津中学校長	長坂 洋人 様
・PTA会長	早川 啓子 様

(3) 研究教科の拡大

昨年の3教科(国語・数学・英語)に加え, 地歴公民科と理科に取り組みを拡大した。また, 2年目になる本年度は3教科を2名に増やし, 新しく研究に携わる地歴公民科と理科の教員は各1名とした。

(4) 教科研修会と教科支援員との連携

各教科で中心となる校内の研究推進者を増員するとともに, 教科全体の取り組みに発展させるため, 教科ごとに研修会を実施して活性化を図ることとした。また, 教科支援員との連携を深める取り組みを行うこととした。

- ①教科支援員に教科会への参加を願い、全体に助言が得られるようにする。
- ②研究授業等では、教科支援員と事前に連絡を取り指導案の作成を行う。
- ③文部科学省訪問時の研究授業等の後に教科ごとの研修会を実施し、教科支援員から意見交換や助言が得られる機会を設ける。

3 校内研究行事と委員会等開催計画

	年月日 (曜)	授業支援委員会	校内研究行事	その他
1 学 期	平成 29 年 5 月上旬			職員会議 (本年度 の取組について) 教科会 (校内研究 員の選出)
	6 月 5 日 (月) ～16 日 (金)		第 1 回校内公開授業 週間	
	6 月 15 日 (木)		公開授業	
	6 月 21 日 (水)			学校評議委員会
	7 月中旬			生徒による授業評 価 (1 回目)
	8 月 21 日 (月)		第 1 回校内現職研修 (協同学習について)	
2 学 期	9 月上旬	第 1 回研究支援委員会		
	9 月上旬	授業支援委員会 (国・数・英)		先進校視察 (県外, 県内)
	10 月 12 日 (木)		第 2 回校内現職研修 (研究推進に向けて)	
	11 月 6 日 (月)	第 2 回研究支援委員会 授業支援委員会 (国・数・英・理・地公)		文科省視察
	11 月 1 日 (水) ～10 日 (金)		第 2 回校内公開授業 週間	
	12 月中旬			生徒による授業評 価 (2 回目) 保護者による学校 評価
3 学 期	2 月 2 日 (金)	第 3 回研究支援委員会	最終発表会	
	2 月 20 日 (火)			文科省実践報告 (東京)
	2 月中旬			学校評議委員会